

読者投稿欄

放射光科学の発展のために

—— 加速器屋さんを評議員に ——

安藤 正海 PF/KEK

5月11日神戸産業振興会館において、放射光学会年会が盛況裏におこなわれたことは御同慶の至りであります。菊田前会長のもとに1993年度執行部の発足以来組織の見直しがおこなわれ、いくつかの会則変更が提案され、総会において可決されました。たとえば学会賞があります。今まで、会則があっても選考委員会が発足せず実施されませんでした。まず奨励賞から始めようとのことですね。嬉しい限りです。関係者の御努力に敬意を表するものであります。

ところで、長期的にみて同じように重要なことがあります。それは評議員の中にしめる加速器専門家の比率が驚くほどに低いことでもあります。表1を見てください。毎年選出される加速器専門の評議員の数が年々減ってきています。どんどんと利用のフェイズになっているということです。ついに1994年度はゼロになってしまいました。このままゼロがつづくかもしれません。

表1 加速器専門家の評議員数

年度	1992	1993	1994	?
人数	〈5〉	〈2〉	〈0〉	〈1〉

放射光科学は絶えず発展していく分野です。将来計画はとくに重要でしょう。将来計画には加速器専門家を欠かせません。放射光学会の総意を代表する場は評議会ですから、加速器専門家の参加を欲しいところです。適切な人数がどのくらいか

は難しいところですが、その数がゼロとか1でいいとは誰も思いませんでしょう。加速器屋さんは奥ゆかしくて自己主張をあまりされません。したがって折角の学会活動総合検討委員会においても議論されなかったとみえます。

みずからのサイエンスにどのような光が必要であるかをつきつめていけば、加速器の専門家との接触が重要になるでしょう。高エネルギー物理学研究所のように利用者・装置開発者・加速器専門家がそろっていれば、議論も日常的になっていくのでしょうか。そうすれば、おのずと加速器専門家の役割に対して深い認識になっていくものかと思われまます。

ところが放射光学会のかなりの会員は利用者です。放射光マシンがあるところからみれば外部ユーザーです。つまり加速器屋さんとの日常的なつきあいはあまりないかもしれません。放射光は国鉄のようにいつも時間に忠実です。海外からきても時刻どおりに運転されている素晴らしい光源です。水道のごとく蛇口をひねればいつもおいしい水が出ます。光源の役割はともすれば忘れられることになります。井戸を掘った人の有難さを忘れがちです。水道をいっしょに建設したはずの我々もよく忘れます。次の水源を求めることもあると思いますので心したいと思う訳です。

上の問題に対して何をすべきかを具体的に考えてみたいと思います。放射光学会ひいては放射光科学が健全に発達するためには、利用者と加速器

専門家との日常的な関係がまず第一に重要であります。これは見える形にすることは困難です。ましてや数で表わすことは困難です。そこで数字にみえるものとして放射光学会の評議員会を考えてみます。そこでの加速器専門家の数の目標を全体の4分の1から5分の1くらいとするのはどうでしょうか。

今使っている放射光リングは自動車にたとえば3ナンバーかもしれません。世の中ではいろいろなタイプの5ナンバーのファミリーカーが作られています。コンパクト・シンクロトロンがこれにあたるでしょうか。これからの放射光科学においては、どのような量産型のファミリーカーとどのようなF1タイプのフォーミュラカーをどのように作り、どのように使うかが課題であろうと思っております。少なくとも、どちらにしても、車作りの専門家が必要であります。

問題はどのように現行の規則の中で加速器専門の評議員の数を確保してもらうかです。専門分野ごとに囲いだと問題なので慎重にすべきですが、他にいい知恵もないので、ずばり枠を設定することを提案したいと思います。ただし慎重に議論してください。

さて表2の年齢分布をみましょう。

表2 年齢分布

	1992	1993	1994	?
(a) 30代	(0)	(1)	(0)	(0)
(b) 40代	(7)	(9)	(6)	(6)
(c) 50代	(7)	(3)	(6)	(8)
(d) 60代	(1)	(1)	(3)	(1)
(e) 70代	(0)	(1)	(0)	(0)

1992年度選出から1994年度選出までをみますと、40代、50代が主力であります。現在の3サイクルから4サイクルに増やすことによって若手から評議員の登用を計りたいのであるという提案理由が総会においてなされました。ちなみに1994年のつぎの欄の?マークを付けた数字は第4サイクルが出現したときの予想年齢分布です。この表をみる限り、現在の評議員の選出のサイクルを3から4に増やすことによって、年齢分布が若い方へシフトすることは難しそうです。むしろ4サイクルに増やすことによって、このまま推移すれば、各サイクルにおける加速器専門家の数がますます減り、場合によってはゼロになるサイクルがつづき、本文の趣旨と反対の方向へ行ってしまわないかと心配しています。

